

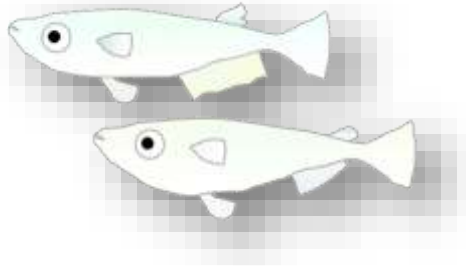
# メダカの増やし方

メダカは上手に飼うと春から秋にかけてタマゴを産みます！

## 親メダカの繁殖環境を整えよう

☆親メダカのオスとメスは1：2の割合でメスを多めに入れましょう。

◎オスは背びれに切れ目があり尻びれが大きい。メスはオスより体が丸く尻びれが小さい。



☆日照時間と水温を調整しましょう。

◎日照時間：一日のうち明るい時間が13時間以上（冬季に繁殖させたい場合はライトを使って調整）

◎水温：18℃～26℃くらい（冬季に繁殖させたい場合はヒーターを使って調整）

## タマゴが産まれたら

☆メダカの産卵は早朝に行われます。メスは産んだタマゴをしばらくお腹にくっつけて泳いでいますが、お昼ごろには水草などにタマゴを付着させます。メスのお腹からタマゴがなくなったら、水草などを観察してタマゴを見つけてください。

☆タマゴはそのままにしておくと、なんと親メダカに食べられてしまう可能性があります！

産まれたことを確認したら、水草ごと別の水槽や産卵ネットなどに移しましょう。

☆できたら、タマゴを一粒ずつ水道水でキレイに手のひらに擦りつけるようにゴシゴシ洗ってあげた方がよいです。タマゴには水草などに絡みつくよう糸状のものが付着しています。それが他のタマゴと絡みつき、水カビが広がる原因となります。糸状のヌルヌルしたものをきれいに取り除きましょう。

☆白くなってしまったタマゴは無精卵か死んでしまったものなので孵化しません。放置すると水カビの原因となりますので、取り除きましょう。

☆タマゴの飼育には水道水のほうが管理しやすいです。水道水に含まれる塩素がタマゴの水カビを防いでくれるからです。タマゴは硬い殻で覆われているため塩素が中まで浸透しないからです。ただし、孵化するまでに飼育水の塩素がなくなっているようにしてください。

## 赤ちゃんメダカの育て方

☆水温が25℃くらいだとタマゴは10日ほどで孵化します。（水温が高いほど早く孵化します）

☆生まれたての赤ちゃんメダカは2mmくらい。針子（はりこ）と呼ばれています。

☆孵化して1～2日するとエサを求めて泳ぎはじめます。赤ちゃん専用のエサを与えましょう。孵化したての赤ちゃんはヨークサックという栄養の固まりをつけて産まれてくるので1～2日はエサは与えなくて良いです。

☆赤ちゃんメダカは大きくなるまでタマゴ同様に食べられてしまう危険があるため、親とは別の容器で飼育します。

☆赤ちゃんメダカは水質の変化に弱いです。親魚のように水替えを頻繁に行わず、食べ残しをスポイドで取り除き、減った水を注ぎ足すくらいで大丈夫です。